



# A 試合会場レポート

試合番号 **973**

開催日 **2018/12/23**

平成30年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 男子 ファイナルラウンド

会場：大田区総合体育館

観客数： 1,700	開始時間： 11:08	終了時間： 12:46	試合時間： 01:38	主審： 江下 毅	副審： 村中 伸
------------	-------------	-------------	-------------	----------	----------

## 東レアローズ



監督：小林 敦  
コーチ：篠田 歩

通算： - 勝 - 敗  
ポイント： -

0	24	第1セット 【 00:31 】	26	3
	22	第2セット 【 00:29 】	25	
	23	第3セット 【 00:32 】	25	
		第4セット 【        】		
		第5セット 【        】		

ポイント                      【】 内はセット時間                      ポイント  
-    () 内は交代選手    -

## JTサンダース



監督：ウコヴィッチ ヴェセリン  
コーチ：サトレル ティネ

通算： - 勝 - 敗  
ポイント： -

**<監督コメント>**

1セット目の競り合いを取ることが出来ずJTに良いリズムを与えてしまった。エドガー、劉の打数が増えることが分かっていたながら、対応することが出来なかった為に最後まで苦しい展開となってしまった。今日はくわしい一戦となってしまったが、天皇杯準優勝の結果に胸を張って、来年から再スタートするVリーグを向かえたいと思う。  
今大会および今年もたくさんの応援ありがとうございました。

24	ルジェ	富松	第1セット	エドガー	小野寺	26
	(        )	( 鈴木 )		(        )	(        )	
	星野	アウン		山本	劉	
( 渡辺 )	(        )	(        )	(        )	(        )		
李	藤井	安永	深津			
(        )	( 伏見 )	( 久原 )	(        )	(        )		
リベロ： 井手				リベロ： 井上 (航)		
22	ルジェ	富松	第2セット	小野寺	劉	25
	(        )	( 鈴木 )		(        )	(        )	
	星野	アウン		エドガー	深津	
(        )	(        )	(        )	(        )	(        )		
李	藤井	山本	安永			
(        )	( 伏見 )	(        )	( 久原 )	(        )		
リベロ： 井手				リベロ： 井上 (航)		
23	李	アウン	第3セット	エドガー	小野寺	25
	(        )	(        )		(        )	(        )	
	藤井	ルジェ		山本	劉	
( 伏見 )	(        )	( 武智 )	(        )	(        )		
星野	富松	安永	深津			
(        )	( 鈴木 )	(        )	(        )	(        )		
リベロ： 井手				リベロ： 井上 (航)		
	(        )	(        )	第4セット	(        )	(        )	
	(        )	(        )		(        )	(        )	
	(        )	(        )		(        )	(        )	
リベロ：				リベロ：		
	(        )	(        )	第5セット	(        )	(        )	
	(        )	(        )		(        )	(        )	
	(        )	(        )		(        )	(        )	
リベロ：				リベロ：		

**<監督コメント>**

選手、スタッフ、JTに心からおめでとうと言いたい。両者とも素晴らしいパフォーマンスだったが、我々が今日は上回っていた。試合の鍵になったのは1セット目を逆転して取り、勢いに乗ることが出来たことだろう。この若いチームでタイトルを獲得出来たことを誇りに思う。この大会で優勝に値するパフォーマンスを見せる事が出来たと思う。ファンの皆様ご声援ありがとうございました。

## <要約レポート>

昨日の興奮冷めやまない会場の中、天皇杯全日本選手権ファイナル男子は東レアローズとJTサンダースの一戦となった。第1セット、序盤から一進一退の攻防が続く中、東レ・星野、ルジェのスパイクが冴えリードを奪うも、徐々にJTがエドガーの連続ポイントで流れを掴み、山本の攻守の活躍でセットを奪う。第2セット、JTは、劉の活躍で点数を重ねリード、セッター深津も小野寺、安永のセンター攻撃を、上手く使い点数を重ねリードする。東レもアウンの連続ポイントで再度流れを掴みかけるも、JT・劉のサーブポイント、深津の好レシーブからの攻撃で再び流れを戻すと、リードしてセットを連取する。第3セット、東レも富松の気迫溢れるスパイクで応戦、中盤までお互い譲らぬ展開が続く中、JTは劉のブロックポイント、エドガーのブロックを打ち抜く打点高いスパイクが決まり、4年ぶり平成最後の天皇杯をチーム全員の力で勝ち取った。

作成者：中嶋 幹朗